金管楽器について

金管楽器は，金ぞくで作られた「らっぱ」の仲間です。どの楽器も，マウスピースとよばれるふき口から息をふきこむときに，くちびるのしん動を伝えて音を出します。管の長さやまき方などが楽器によってちがい，管が長いほど低い音が出ます。

1．トランペット

マウスピースの様子

トランペットは古いれきしをもつ楽器です。トランペットやホルンの仲間で最も古いものは，およそ3000年前のエジプトから出土しています。そのころは，金ぞくだけでなく，貝や木，竹などいろいろなもので楽器が作られていました。

トランペットは合図や信号のために使われていましたが，楽器が進化してせんりつがふけるようになると，宮ていや劇場など，いろいろなところで活やくするようになりました。また，何本かで音を重ねて，はなやかにえんそうされるようにもなりました。げんざいでは，「ミュート」とよばれる消音器を使ってどくとくのひびきを出すそう法もみられます。

ミュートをつけてえんそうする

2．ホルン

ホルンも古いれきしをもつ金管楽器で，動物の角で作った角笛がもとになったと言われています。
その後，かりなどで信号を送るために，馬に乗ってふけるよう管を丸くまき，ベルを後ろ向きにして作られるようになりました。

ベルの後ろがわから見た様子

ホルンのマウスピースはトランペットのそれより直径が小さく，形もほっそりしています。
小さいマウスピースで長い管をコントロールするので，えんそうがむずかしい楽器と言われています。

ホルンの
マウスピース

むかし使われた，管を丸くまいただけのホルン

ホルンは，勇ましくえんそうしたり，包みこむようなやわらかい音を出したりと，音色の表じょうがゆたかです。
そのため，古くからいろいろな種類の合そうに使われてきました。

トランペットやホルンなどの金管楽器は，もともとその楽器がもっている管の長さによって出せる音がかぎられていました。そのため，一つの楽器の中で管の長さを変えていろいろな音を出せるしくみが研究され，200年ほど前にバルブという機のうが開発されて，音階をえんそうすることができるようになりました。しかし，まだバルブのなかった時代，ホルンをふく人たちは，ベルの中に手をさしこむことで音の高さを変えて，出せる音をふやしました。これは「ゲシュトップそう法」とよばれ，用いると音がくぐもった感じになります。

3．トロンボーン

トロンボーンも古いれきしをもつ楽器ですが，管をスライドさせて長さを変えながらえんそうするしくみのため，バルブが無くても音階をふくことができました。そのため，古くから教会の音楽などで活やくしました。
げんざいでは，ジャズやオーケストラ，すいそう楽など，いろいろな音楽で活やくしています。

トロンボーンのマウスピースの形はトランペットのものとにていますが，より大きく，あつくつくられています。

金管楽器のマウスピース

ホルン　トランペット　トロンボーン

トロンボーンといえば，音を出しながら音の高さをいきおいよく変える，ぞうの鳴き声のような音をきいたことはありませんか。
これは息をふきこみながらスライドを動かして出す「グリッサンドそう法」とよばれるもので，トロンボーンの大きな特ちょうの一つです。

スライドを長くのばしてふく